

令和6年度 第2回 木更津市男女共同参画推進委員会 会議録

- 開催日時：令和6年11月27日（水）午後1時30分から2時30分
- 開催場所：木更津市役所 朝日庁舎 会議室B
- 出席者：（委員）佐伯康子、生田まゆみ、伊豆浩江、水島享子、神谷英志、
天野茂実、小林晶子、廣橋美帆、河原林裕、木下学（敬称略）
（木更津市）石井市民部長、西野地域共生推進課長、江澤係長、
松木主査、鈴木主事
- 議題及び公開又は非公開の別：
（1）次期計画の方向性について【公開】
- 傍聴人：なし

1 開会

（事務局：江澤係長）

それでは、ただ今より、令和6年度 第2回 木更津市男女共同参画推進委員会を開会いたします。

本日の出席委員数は14名中、10名であり、附属機関設置条例第6条第2項に規定されている半数以上の出席を得ておりますので、会議は成立いたします。

なお、森田泰文委員、宮ノ下委員、森田恵奈委員、高橋委員から、欠席の連絡がありましたので、ご報告いたします。

また、本会議は、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例第3条の規定により、会議は公開で行い、会議記録及び会議資料も公開となります。

なお、本日の傍聴希望者はおりませんので、ご報告いたします。

2 部長あいさつ

（事務局：江澤係長）

それでは、開会にあたりまして石井市民部長からご挨拶させていただきます。石井部長お願いいたします。

（石井部長）

みなさん、こんにちは。市民部長の石井でございます。

本日は、お忙しい中、令和6年度 第2回 木更津市男女共同参画推進委員会にご出席をいただきまして、誠に感謝申し上げます。

さて、昨年、導入いたしました、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度でございますが、10月1日に、県内の制度導入自治体で構成している連携協定に本市も加入したところでございます。

自治体数は本市を含めて13市で、協定への加入により、連携自治体間の転入出において、提出書類が省略できるようになるなど、利用者のサービス向上を図ることができました。

また、現在、本市では、来年2月末まで、男女共同参画に関する意識と実態把握のため、市民や事業所にアンケートを実施しております。

市民のみなさんからいただいた貴重なご意見は、第6次の男女共同参画計画策定の際に、本委員会での資料に反映させたいと考えております。

本日の会議では、これまでの委員のみなさんからのご意見を踏まえ、第6次の計画策定の方向性について事務局から説明がありますので、忌憚のないご意見を賜りますようお願いを申し上げます。私からのご挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 議事1 次期計画の方向性について

(事務局：江澤係長)

それでは、議事に入りたいと思います。

本委員会の議長ですが、附属機関設置条例第6条第1項の規定により、委員長が議長となることとなっておりますので、佐伯委員長に議長をお願いしたいと思います。

佐伯委員長、お願いいたします。

(佐伯委員長)

はい。それでは、議長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

円滑に会を進められるよう努めますので、みなさんのご協力をお願いいたします。

それでは、議事の「次期計画の方向性について」です。「計画の位置づけ」、「事業の評価方法」、「事業の棚卸」の3点が会議次第にあります。まず、「計画の位置づけ」について事務局から説明をお願いします。

(事務局：松木主査)

計画の位置づけについてですが、昨年度の第2回推進委員会において、「共生」の下に「男女共同参画」を位置づけて施策を進めていく方向性への賛成意見が多数見られました。これを踏まえて、次期計画ではどういった方向性・コンセプトを採用して策定に臨んだらいいかという点について、今回改めてご意見をいただければと思います。

(佐伯委員長)

ありがとうございます。

今、事務局からの説明がありました次期計画の方向性についてですが、今回は次年度のことも踏まえまして、ぜひ委員のみなさまからご発言を頂戴したいと考えております。

ご意見のある方、また事務局への質問でも構いませんが、何かある方お願いいたします。

(木下委員)

次期計画の方向性というところでの意見ですが、ちょうど今朝、NHKで男女共同参画について取り上げられていて、実際に色々テーマがあると思うんですけども、その中で、この3つがテーマですという形で明確にさせていただけるとありがたいなというのがあります。前回の推進委員会で、共生の下に男女共同参画という形で位置づけられたわけですけども、特に市としてはこの3つについて取り組んでいきます、この1年の中で庁舎内でこの3つについて考えていきたいと思いますとか、市民の方に対しても、この3つのことを推進していきます、という形の方が伝わりやすいのかなと思ひまして、その辺りを明確をお願いしたいなと思います。

(佐伯委員長)

ありがとうございます。事務局いかがですか。

(事務局：江澤係長)

確かにテーマがある方がはっきりすると思いましたが、令和7年度に国や県で基本計画の策定の見直しがありますので、また県からもテーマが来ると思っておりまして、こちらでも取捨選択しながらまたお諮りしていきたいと思います。

(佐伯委員長)

他に委員のみなさんいかがでしょうか。

(木下委員)

ちょうど今、市民アンケートを実施されていると思うのですが、現状での回答件数はどのくらいでしょうか。

(事務局：江澤係長)

今は350件くらい市民アンケートの回答がございます。去年が約320件であったので、去年よりは回答数が取れております。

(木下委員)

ありがとうございます。

何か自分としてできることがあればと思い、このQRコードをSNSとかに掲載してもいいでしょうか。

(事務局：江澤係長)

市のSNSには、アンケートのQRコードを掲載しています。この後、委員さんにはアンケートのチラシを帰りにお渡ししようと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(河原林委員)

前に説明があったかもしれないのですが、次期計画を制定するまでのスケジュールや手続きを確認させていただいてよろしいでしょうか。市議会への報告やどこかで採決をするといったことは、ないのでしょうか。

(事務局：江澤係長)

はい。政策調整会議などの庁内会議では事前に説明するものと思っております。条例ではないため議会での審議はございません。スケジュールはまた来年度、新たな委員さんが決まりましたらその方々の任期の中で作成となるので、分かり次第スケジュールをお示しさせていただこうと思います。

(佐伯委員長)

他に何かご意見はございますか。

(木下委員)

アンケートの項目と絡むので状況として伺いたいと思うのですが、アンケートや12月の多様性のイベントでは、LGBTQや多様性についての取組が進められていると思うんですが、昨年度は太田中学校、来年度は木更津第三中学校のように、中学校の現場で、制服が従来のセーラー服から選択制へと進んでくると思います。市役所の中でもオーガニックなスタイル

へという形で、多様な考え方とスタイルを模索されているので、私は最終的には、小中学校の現場の中でそういったものを育んでいかないと地域としてやっぱり育っていかないのかなと思います。そのあたりは、教育委員会がうまく連携していくといいのかなと思っています。

（佐伯委員長）

ありがとうございます。

それでは、2点目の「事業の評価方法」について事務局から説明をお願いします。

（事務局：松木主査）

事業の評価方法についてですが、第5次計画における進行管理上の評価軸の「A・B・C・実施しなかった」について、Bの占める範囲が広すぎるため、第6次計画策定の際にはゼロベースで見直す予定です。

次に、「何を・いつ・どれくらい」行うかが明確となるよう定量的な実施計画を作成することを庁内各課に求めます。達成度合いを明確にできる目標を年度当初に設定することで、客観的な評価が容易となるような目標の設定を徹底したいと考えております。

（佐伯委員長）

前を向いた新しい方法を模索していきそうな気配が感じられますが、これについていかがでしょうか。

（木下委員）

観点の中で「A・B・C・実施しなかった」というのがあると思うんですけども、すごく頑張って達成した場合などは、例えばSという評価が良いかなと思います。市としてすごく積極的に取り組み、さらに発信をされていて、実現しようという思いを感じるものになっていると思います。そういうものはS評価であって、その中で出てくる「A・B」をどう改善していけるかということだと思っています。具体的には、パーセンテージもそうなんですけれども、何をいつ、どのくらいやったのかを必ず盛り込んでください、ということが大事だと思います。評価の方法を決めた後に、庁内で策定にあたって説明をする場を設けるなどの工夫をしていただきたいなと思います。

（佐伯委員）

事務局いかがですか。

（事務局：江澤係長）

その通りだと思います。今回、第6次計画を作るにあたって、各課等にヒアリングをしようと思っています。第5次の計画の際は書面で照会をして回答をいただいたのですが、今回はすべての課にヒアリングをして、課題やいつ何をどれくらいが可能なのか、可能であれば今の事業と照らし合わせて評価が可能なのかといったことについて、直接話をして棚卸につなげられたらなと思っています。

（佐伯委員長）

ありがとうございます。木下委員、いかがですか。

（木下委員）

ありがとうございます。こういうふうにコミュニケーションを取られるのは、すごく素敵だ

と思います。

（佐伯委員長）

他に、委員のみなさんご意見ございますでしょうか。

（河原林委員）

以前にも定量的にどう評価するのかというご意見を言わせてもらったかもしれないんですけど、現在掲げていただいている項目は定量的じゃないと思う部分があって、どう定量的にしていくのか、例えば委員の人数や割合であれば簡単にできるんですけども、そうではないところをどう定量化するのかなということが1つ気になる点です。

もう1つ、確かに庁内ではこれだけ頑張っているんだけど、市民全体での男女共同参画の実行について、今後どういった取組をしていこうかというところを考えられているのかお聞きしてもよろしいでしょうか。

（佐伯委員長）

河原林委員、ありがとうございます。

定量化ということをどのように実現を図っていくのかということと、また市役所内のみならずすべての人々に行き渡るという考えを進めるとしたらどういう方法を考えていらっしゃるということでよろしいですか。

（事務局：江澤係長）

市民の方に、男女共同参画が進むような何かをしてもらうということでよろしいでしょうか。

（佐伯委員長）

河原林委員、いかがですか。

（河原林委員）

木更津市の計画ということは庁内だけの計画ではないということですよね。ですので、広報や教育とか、例えば企業さんに働きかけるとか、先ほどの制服の問題とか色々あると思うんですけど、やっぱり市民全体で考えていくべきことじゃないかなと思います。それ以外で、木更津市で最近外国の人も多いので共生の問題というのももっと大きくなると思うんですけど、そういった庁内だけでは動きが閉じこもっているのかなと思い、確かに広報とかホームページでこういうアンケートをしますというのはされているんですけど、それ以上に市民として何かをするというようなことを、どう考えられるのかなということをお聞きできればと思います。よろしくお願いします。

（事務局：江澤係長）

確かに現在の事業は、基本、市の各課がやっており、その中で事業者などとも協力してやっていく課もあるのですが、直接事業者にこれをしてもらうとか、市民にこれをしてもらうという内容にはなっていません。それをやってもらうようにするというところが可能なものがあればと思うのですが、何をやっていくかは具体的にはまだ考えていません。

（佐伯委員長）

河原林委員、何かアイデアはございますか。

(河原林委員)

今すぐには私も思いつかないのですが、外国の人たちに対しての日本語教育や日本のルールでは、例えばごみの出し方が日本と違うというのがトラブルになるというニュースで出たりしますよね。そういった活動をしていただくとすごく共生に繋がって、その外国の人たちということを日本人が嫌うということがなくなるのかな、と思います。周りを巻き込みながら、市の職員以外でもできるような部分とか、先ほど木下委員が言いましたような制服から考えましようとか、市の保育園などでは昔は女・男で分けて作っていた名簿をやめましようとか、そういうことを実践されていると思うんですけど、私たちだけでは分からないことをアンケートで聞いていただけると、もっと出てくるかもしれないと思います。

また、先ほどの定量の部分について教えていただければと思います。

(佐伯委員長)

ありがとうございます。

(事務局：江澤係長)

定量の部分というのは、先ほど各課と男女共同参画に係る事業を実施する際に上げてもらう中でヒアリングをして、今のものでも目標を見ると評価が定量的になっていないものがあるので、その目標が男女共同参画に寄与するものであれば、それはなくすわけにはいかないと思います。それを留めたまま、定量的なものにどうやったらできるかという相談をしながら作っていかうと思っていまして、そのような形で例えば10個のうち2個定量的でなければ、1個減らしたり2個減らしたりというように、ヒアリングで定量的というところをやっていかうと思っております。

また、先ほどお話のありました外国人について、今アンケートを外国人の方を対象にとっておりまして、その中で日本語教育の充実のために何ができるか、今後それ以外にも何か出てきた中で全庁で取り組めるものがあれば個別に相談していきたいと思っております。男女の中というところだと外国人は少し違うのかなと思うので、共生というところでこの計画とは別の流れとして、取り組むことを検討しなければいけないと思っております。

(佐伯委員長)

ありがとうございます。他に何かご意見のある方いらっしゃいますでしょうか。

(木下委員)

先ほど伊豆先生に富来田中学校だけセーラー服のイメージがあると言いましたけれども、例えば富来田中学校っていつぐらいの予定で進めてらっしゃるのでしょうか。

(佐伯委員長)

伊豆委員、よろしいですか。

(伊豆委員)

はい。今年度、木更津市の中学校では、令和7年度の1年生から、すべてブレザー、スラックスで対応しています。2・3年生は旧の制服なのですが、令和7年度入学の1年生から全12中学校すべて実施することとなっております。本校も今年お話をいただきまして、令和7年度の入学生から導入するようお話を進めました。

(木下委員)

たまたま他の学校が新しい制服について発信されており、富来田中については情報がなかったで質問させていただきました。参加されている方々もそうなのですが、自分事に置き換えて考えてみるとか、実は中学校として全体で進んでいるという話が共有されるのはすごく大事なことだと思います。逆に私たち世代かもしれないのですが、アンコンシャスバイアスというか、男・女みたいな性差、そのように考えていることがあるかもしれないと思いました。

また、河原林さんにお伝えすると、アンケートの紙面の項目を見ると、今質問された項目はアンケートの中にある男女共同参画推進のための取組についてという項目があり、その中に女性の管理職を積極的に登用するとか、市民のために問うている項目に該当するのかなと思うので、そのあたりを元にして柱を作っていくのかなというのが思ったところです。

(佐伯委員長)

ありがとうございます。

それでは、３点目の「事業の棚卸」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局：松木主査)

事業の棚卸についてですが、性別に関係のない事業の見直しや重複している複数の事業を統合することで、計画そのものをコンパクトなつくりとすることが望ましく、そのうえで優先的に取り組むべき事業に絞り、課題を明確にすることが男女共同参画の推進において重要だと考えています。

計画事業から除外または見直しを行う事業のパターンの案は次の４つです。

①性別に全く関係のないもの

例として、連番５７「２－５－３ ②社会生活上の困難を抱えている人々への理解促進」や連番６４「２－６－１ ②自殺対策・メンタルヘルス保持の推進、各種講座などの開催」など、性別に全く関係のないものについては除外すべきであると考えます。

②他の事業と統合すべきもの

例として、連番８１「３－９－１ ③男女共同参画の視点に立った講座等の開催」と連番８２「３－９－１ ③男女共同参画の視点に立った講座等の開催」など、事業の内容が重複しているものについては統合する必要があると考えます。

③定型業務であり実施が当然のもの

例として、連番３「１－１－２ ①男女の均等な雇用機会の確保に向けた広報・啓発」など、国や県から送られてきた情報をホームページに掲載するといったような、実施が容易であり、かつ、例年当然のように実施しているルーティーン業務は除外しても差し支えないと考えます。

④定量的評価が困難なもの

例として、連番１７「１－２－１ ②保育・介護のための体制整備、待機児童の解消」や連番８４「３－９－１ ④家庭や地域における男女共同参画教育の推進」など、定量的評価基準を設定するよう担当課と協議を行っても基準の設定が困難な事業は見直しを行い、状況によっては削除してもよいと考えます。

このような観点から、取り組むべき課題を明瞭にするイメージを持ちながら、次期計画策定

の前年度である令和7年度に棚卸を行いたいと考えています。

以上の点を踏まえ、委員のみなさんからのご意見を伺います。

(佐伯委員長)

ありがとうございます。

今の3点目、事業の棚卸につきましてご意見を賜ればと思います。

何かご意見はございますか。

(廣橋委員)

木更津市役所職員課の廣橋と申します。よろしくお願いいたします。

棚卸の説明の中で、観点は非常にわかりやすく、その方向で進めていただくのは非常にいいかなと思いました。最初に、計画の位置付けについての説明があったと思うんですけども、この中で、方向性とコンセプトを今後検討していくという中で、国の方からテーマが示されるという話があったと思うんですけども、いつ頃になるのでしょうか。

(事務局：松木主査)

令和7年度が国と県、令和8年度に市が作成することとなっております。

(廣橋委員)

ありがとうございます。

そうしたら、国や県がテーマを示されてから市の進むべき方向性を明確にして、棚卸をしながら、今項目が結構あると思うんですけども、そういったものも縮小していくようなイメージになるのでしょうか。

(事務局：江澤係長)

今やっている事業をコンパクトにし、その上で、国や県が出てきたものをプラスアルファしていこうかなと思っております。

(廣橋委員)

ありがとうございます。

(佐伯委員長)

そうしますと、国や県から降りてくる前にこちらとしても、考えておくということですね。

ありがとうございます。

他の委員のみなさん、何かございますか。

(木下委員)

国や県から降りてきて、市として考えるというサイクルはもうずっと大きな枠組みであると思うんです。ただそこで大事なものは、木更津市自体をどういう方向に変えたいとか、国の方で方針としてやるんだといった時、追加よりもアレンジをしていけばいいと思っていて、ただ最終的には、木更津市としてこういうものを目指したというのが必要だと思うんです。

今までも、国や県のフローをなぞってやりましたとか、これについてABCと付ける癖があると思っていて、そうではなく、木更津市の中でこれを課題として、自分の事業に引き寄せて考えますということが今大事だと思っていますので、ぜひ今のように評価を変えながら、国とか県の動向を見ながら、どう受け入れて変えていくかというところをお願いできたらなと思い

ます。

（佐伯委員長）

ありがとうございます。木下委員の発言に対し、事務局いかがですか。

（事務局：江澤係長）

その通りだと思います。

（佐伯委員長）

ありがとうございます。

そうしましたら、委員会としてはこのメンバーでは最後となりますので、来年度こういう姿勢で取り組むんだというお話をみなさんとさせていただいた上で、男女共同参画の委員として、お一人ずつ何かご発言を賜ればと思います。

神谷委員からお願いいたします。

（神谷委員）

今回の話を受けて、第6次計画策定に向けてということでしょうか。

（佐伯委員長）

ご自分で考えられたことについて、何でも結構です。

（神谷委員）

今日お話をお伺いしている中でも、今回、推進委員会の中で出てきていた評価方法の話ですか、より良いものとなっていくのかなと思います。事業の棚卸に関しましても、記載いただいている通り、項目がどんどん増えてしまってだんだん複雑になってしまったり、どこに力を注いでいいのかみたいなのが見えづらくなってしまったりする部分もあると思うので、棚卸ですとか、もうちょっと集中しながら、さらには新しく国や県の方向性を踏まえて新しいものに取り組んでいくのは非常にいいことだと思いましたので、ぜひこういった議論を続けながら、次期計画もより良いものになればと思っています。

（水島委員）

P T A連絡協議会から来ております、水島と申します。すごく難しい男女共同参画、最初は何だろうと思って未だに理解が100%できておりません。みなさんや事務局のお話を一生懸命聞いているんですけども、母親の立場として、P T Aに所属している立場として、また、フルタイム仕事をしながら家事をしている立場の一市民として思ったことは、やはりこの計画を進めていく中で、市役所ではなく、各事業所さんの協力がすごく必要になるかなと感じます。育児休暇は男性でも女性でも取れます。そういったときに企業の理解がないと取りづらいし、もちろん一緒に働く仲間の協力を得ないと取れないものではあるのかなと思います。女性は女性特有のお休みがあるけれども男性にはないとか、みなさんが働いている職場の環境が整わないと、これを進めるのはちょっと難しいと感じています。子どもの授業参観、熱が出て帰らないといけないのはお母さんであり、やっぱりすごく課題がたくさんあるのかなあと感じております。

また、制服についても、これはもうジェンダーの時代ですので仕方がないのかなとは思いますが、制服を変えるにあたって、やはり金銭的な問題も発生しており、木更津市内には高給世帯のおうちが多くあるのか疑問に思います。お姉ちゃんのおさがり、隣の人のおさがり、そういったもので済ませている家庭もある中、こういった時代だから制服を変えてしまおう、と簡

単に変えていいものなのかということもありますし、いろんなことを思うと、答えになってないかもしれませんが、この共生・男女共同というものに一歩進むには、なかなか色々な課題を解決していかないといけないのかなと感じています。

（佐伯委員長）

すごく地に足がついたご意見、ありがとうございます。

（伊豆委員）

校長会から来ました富来田中学校校長の伊豆と申します。よろしくお願いいたします。

上手にお話が出来ないかもしれませんが、気がついた点、2点お話しさせていただきます。

まず1点目、制服に関して今お話いただきましたが、市内の中で富来田中学校と木更津第三中学校が一番遅く決断したと思っております。全く変えるつもりは最初なかったのですが、制服の会社から提示されたのは、今のセーラー服をそのまま使用するとかえってコストが高くなると。それよりも、今ブレザーでクリーニングができる、ボタンを変えるだけで、男の子と女の子の兄弟がいてもつけかえることができる、というような経済的な部分をご相談させていただき、うちの学校としては新しくしようということで決断をさせていただきました。保護者の方のご理解や、コミュニティスクールのご理解をいただいた上で、デザインを煮詰めて決定していくということでやらせていただきました。

個人的な話をさせていただきますが、過去の自分の教え子で性が変わった子がおりました。いつから悩んでいたのって大人になって出会った時に聞いたら、中学生の時は心がもやもやしていて、何か自分が違うんじゃないかなと思っていて、やっぱり違うって決断できたのが高校生の時だったと、そっと教えてくれました。もうちょっと早く寄り添ってあげられたら、苦しまなくて済んだのではないかな、と思った経験があります。

そこで2つ目のお話なのですが、この棚卸の欄に、性には関係ないということで中学生の自殺対策やメンタルヘルスの削減と書いてあるのですが、これってとても大事なことは個人的には考えます。今、中学校でもこの授業をさせていただいている学校が多くあるんですけども、あなたのままでいいんだよということを、外部機関やLGBTQの方など色々な方面の方からお話をいただいている、表面的には出さなくても、心の中ではそうだと思っている子ももしかしたらいるんじゃないかなと考えます。自分の目の前の生徒たちには悩んでいる生徒はいないのですが、もしかしたら言えずにもやもやしている子もいるのかなと思うので、見えるところだけでなく、やはり子供たちに見えないところも育てていく大事な時期ではないかと私は個人的にそう考えます。

教育界では自分が年上の方になってきて思うのは、やはり男子とか女子とか意識しているのは大人だけかなと思っていて、子供たちの方が平等な考え方でやっているの、男は男らしく、女は女らしくなど思っているのはもしかしたら私だけなのかもしれないと思うことがあるので、積み重ねていくことが大事だと考えています。

（生田委員）

人権擁護委員の生田と申します。今、人権擁護委員では毎年夏休みに、中学生に人権に関する作文を書いて出していただいています。年々、多様な考えを持った作文が出てくるという気

がして、大人の私たちが読んで、こんなことを考えているんだなという作文がとて多く見受けられるんです。小中学生にはポスターを書いてもらっています。それも年々いろんな特徴が出てきて、ウクライナの戦争が始まった時は、ひまわりを書いた子もいました。でも年々、暗い絵が多くなってきていて、特に中学生は閉じこもった絵が多くなってきているような気がします。こちらはこれからも続けていきますので、よろしくお願いいたします。

（木下委員）

議事の説明についてメールで受け取った時もあったのですが、その計画と事業の評価方法、事業の棚卸について、目指すものが色々な形で見えてきて、木更津市がどうなっていくのかなと楽しみにしています。伊豆先生がおっしゃったように、市としてこういうふうを考えて進んでいくという中で、私自身は民間企業で教育に携わっておりますので、こういった取組が色々なところから見ても、市のこれからを作るにあたっては大事なのかなと思います。

もう1つは、男女共同参画といったとき、市民も庁舎内もそうだと思うんですけども、私どもの会社ではちょうど12月にLGBTQや男女共同参画について、半日ぐらいのオンライン講習を毎年受けています。市民の方にアンコンシャスバイアスについてのアンケートを作ってみて、こういうところが注意できたよと伝えることもできるのかなと思いますので、木更津市らしさが出てくるといいかなと思います。

（河原林委員）

男女共同参画とは違うかもしれないですけど、例えば、歩道橋は日本にしかないんです。アメリカの町で歩道橋があると、絶対エレベーターがついているんです。車椅子や自転車の人がいけないというのは、私は男女共同参画以前の問題として共生できていないと思うんですけど、結構学校の近くにあるんですよね。そういうのをおかしいね、と考えることをしていかないと、みんな健康だから通れるわけで、車椅子だけで誰にも押してもらわずにどこへでも行けるように私はなって欲しいと思います。ですので、そういったところを変えて欲しいなと思いますし、先ほど水島委員が言われたように、事業所の協力が必要だけれども、その中には従業員が子どもを学童保育や保育園に預けられない人がいたら絶対できないですよね。なので、25年くらい前は学童がいくつしかなくて引っ越さざるを得なかったというのがあったと思いますし、それも男女共同参画、共生のためにものすごく重要なことだと思うので、いろいろ提案していただいて、すべての学校に共働きの人が働きながら子どもを育てることができ環境があってもいいのかなと思っています。

それからこうして第5次まで計画をずっと実施されてきたので、あまり達成できてないものを優先的に次はやっていく方が見た目でもよくなるかなと思いました。

（廣橋委員）

委員のみなさんのお話を聞かせていただいて、いろいろな立場の方のお話があってすごく参考になったなと思って聞かせていただきました。ありがとうございます。

これから計画を進めていただけるということを踏まえまして、先ほど木下委員は、市の課題をきちんと明確にして取り組んでいくことを要請されたと思うんですけども、私の方は、これから個別の計画の中身を作らせていただく立場にありますので、そういった観点も忘れずに

策定にかかわらせていただきたいと思います。

（小林委員）

生活支援施設F A Hコスモスの施設長の小林と申します。うちの施設は外国籍の方が多いのと8割以上がDVからの避難で入られている方なので、男性が優位で、女性の方が虐げられているという世帯環境で暮らしてきている方たちがほとんどです。ですので、男女共同参画に関してはすごく大事ななという気はしています。

委員として関わらせていただくようになってからの率直な私の感想としては、今日も資料をいただきましたけども、とにかく資料が膨大ですよ。資料が事前に送られてきても、最後まで目を通せません。実際にこの当日にいかがでしょうということを言われても、なかなか難しいです。膨大な資料に目を通した上でないと言えないと思いますし、実際にこれを取りまとめる市のみなさんは本当に大変だろうというのは毎回感じているところなので、日々の業務の上にプラスしてやるというのは、すごく大変かなという気がします。こういう作業が負担になってはいけないなと思うので、今日も議題の中でたくさん挙げていただいたんですけども、ここで大幅な見直しをするというのはすごく大切なと思います。いい意味でスリム化をするというのはすごく必要だと思っているので、たくさん項目あげればいいのかという訳ではなく、こんな時代だからこそ対面のヒアリングをするというのが大切なと思っています。その中で、男女共同参画ということに照らし合わせて、こういうことが課題になっているんですという生の声を聞いていただいて、そこに絞って実施可能なものとして目標に上げてはどうでしょうか。絞り込んで目標設定していただいてそれをクリアしていき、委員の方ではスリム化したものを最後まで私たちが見ないといけないなと思います。ですので、それを見られるような形で、この小さな字でこの量があってもなかなか私たちも見ることができないと思うので、そのあたりは市の方の負担を考えた上でスリム化していく必要があると思います。

先ほど伊豆委員もおっしゃってくださいましたが、男女共同参画のことで頑張っただけでやらなきゃいけないとやきもきしているのは大人だけなのかなという気がして、子どもたちには男だから女だからというのは全くないです。施設の中でもそういう感覚があります。男の子だからこうしなきゃいけないとかそういった考えは全くないですし、スタッフも男の子だからこうしなきゃねということは絶対言っちゃいけないと思っています、大人の意識が変わっていくだけでいいのかなという気がします。取り組んでいるのも大人なので、大人の認識を変えていくだけでいいのかなと私も感じました。

（天野委員）

木更津市民生委員児童委員協議会から来ました、天野と申します。

私も男女共同参画推進委員会の委員にはなっておりますが、男女共同参画についての詳しい状況は掴めていません。小林委員のお話にもありましたけれども、細かい文字は読むだけで大変ですし、作るのも大変なのは分かります。

また、今回の3つの課題の中にありますように、評価報告だとか棚卸についても、色々なものを統合するとか、必要ないものは削除をするとか、この評価報告についても、ゼロベースで進めるとのことですが、ぜひ今度は簡単で明瞭で、なおかつ一般市民にも分かりやすいような

ものにしていただいて、スリム化や効率のいいものにできないかというのは常に思っておりますので、まだゼロベースであれば少しでも踏まえていただいて、作成していただければと考えております。

（佐伯委員長）

今の意見を聞いた上で、何か事務局ございますか。

（事務局：江澤係長）

みなさんの意見をうまくまとめるのは難しいと感じたところですが、木更津市の課題とか、誰もが見やすくというのは本当にその通りで、作っている側は作った気になるだけじゃいけないと思うので、分かりやすく、課題をはっきりさせるというところを意識して次期計画を作りたいと思います。

（事務局：松木主査）

第5次計画の事業数は90くらいなのですが、第4次計画は200を超えておりました。重複しているものもあり半分にはしましたが、何年かやってきてまだ多いと感じています。本当にやらないといけないものが紛れてしまっており、一番大事なものから手を付けないといけないのではないかと感じています。行政は人的資源も少ない中、年々どんどんやるが増えているので、引き算で考えることも大事だと思います。もちろんみなさんが言われた意見はきちんと反映させられるように引継ぎをしていって、木更津市の計画はすごく良いと見てもらえるようなものができたらと思っていますので、委員でなくなった後でもどこかで応援していただければと思います。

（佐伯委員長）

それでは、以上で議事に係る3点について全て終了いたしました。

現在の任期での会議は、これが最後になるかと思いますが、次期任期での計画策定において、参考にしていただけることを願っています。

円滑な議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。

進行を司会にお渡しいたします。

（事務局：江澤係長）

佐伯委員長、ありがとうございました。

閉会の前に、事務局から連絡がございます。

先ほど、佐伯委員長からもお話が出ましたが、昨年7月から、みなさんに担っていただいております、男女共同参画推進委員ですが、来年6月末で任期が満了いたします。

また、今年度の本委員会も今回が最後となりますので、任期は残っておりますが、実質、みなさんとお会いできるのはこれが最後となります。

2年間、みなさんには、貴重なご意見やご指摘をいただき、誠にありがとうございました。

なお、次年度の委嘱においても、学識経験者や各分野の関係団体、そして公募により、委員を募ってまいります。

継続していただける方、今回で最後となる方、様々いらっしゃると思いますが、今後も、引き続き、それぞれの形で、本市の男女共同参画推進にご協力いただければ幸いです。

2年間、男女共同参画推進委員をお引き受けいただき、誠にありがとうございました。

最後ですが、会議冒頭の部長挨拶にありました男女共同参画に関するアンケートですが、ぜひみなさんにも回答していただきたいと思います。お帰りの際にチラシをお渡しいたしますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

また、企業に所属している委員におかれましては、会社として事業所アンケートにもご協力をお願いします。

それでは、事務局からは以上となりますが、委員のみなさんから、改めて、何かご意見等ございましたら。

以上で令和6年度 第2回 木更津市男女共同参画推進委員会を閉会いたします。

委員のみなさん、本日はお忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございました。

上記会議録を証するため下記署名する。

令和6年12月6日

木更津市男女共同参画推進委員会委員長

佐伯 康三